

いもち病が発生しています！ ほ場の見回りを行い、早期防除を行いましょ

6月下旬～7月上旬の水稲巡回調査において、葉いもちの発生が県下全域に見られ、発生ほ場率（平年比 792%）・株率（平年比 392%）ともに平年より高い状況です（表1）。感染好適条件が頻繁に出現しているため、今後も県内での発生リスクは高いと思われまます（表2）。また、調査では進展型病斑が確認されていますので、今後の被害の拡大も心配されまます。

気象庁の週間天気予報（7月10日発表）によると、向こう一週間は、前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多いと予想されていることから、今後の発生増加が懸念されまます。

ほ場での発生状況をよく観察して、発病を確認したら直ちに防除対策を行いましょ。



写真1 葉いもち（進展型病斑）



写真2 ざりこみ症状

1 発生状況

6月29日～7月7日の巡回調査では、県全体の発生ほ場率が19.2%（平年比792%）、発生株率が0.2%（平年比392%）と平年より発生が多い状況にある。

表1 葉いもちの発生状況調査結果（6月下旬～7月上旬）（調査ほ場数：78）

地区	発生ほ場率 （%）	平年比 （%）	発生株率 （%）	平年比 （%）
県北	13.3	500	0.03	500
県央	25.0	778	0.21	300
県南	20.0	2,000	0.30	1,650
県全体	19.2	792	0.17	392

2 葉いもち感染予測モデル（BLASTAM）による葉いもち感染好適条件の判定結果

6月1日～7月9日までの感染好適条件（●）の出現日数は44日（平年値29.1日）と、平年を上回っており、6月中旬以降、感染好適条件（●）や準感染好適条件（○）が連続して出現した地域がある（表2）。

表2 BLASTAMによる葉いもち感染好適条件の判定結果（令和2（2020）年6月14日～7月9日）

日付	那須	黒磯	大田原	塩谷	真岡	宇都宮	今市	鹿沼	小山	佐野
6/14	—	—	●	●	○	○	●	○	○	○
6/15	○	—	●	—	○	—	○	—	●	●
6/16	○	—	—	—	—	—	●	—	—	—
6/17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/19	○	—	●	○	—	—	●	○	—	●
6/20	○	○	—	○	—	—	○	○	—	—
6/21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/22	○	○	○	○	—	—	○	●	—	—
6/23	—	—	—	○	—	—	○	○	—	●
6/24	○	—	—	—	—	—	○	—	—	—
6/25	○	○	●	○	—	—	○	—	○	○
6/26	○	○	○	○	●	—	○	—	—	—
6/27	—	—	●	—	—	—	—	—	—	●
6/28	—	●	—	—	—	—	—	—	—	—
6/29	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/30	—	—	—	—	—	—	●	●	—	—
7/01	○	—	—	—	—	—	●	—	—	—
7/02	—	—	—	—	●	—	—	●	—	●
7/03	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/04	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/05	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/06	○	●	●	●	●	—	●	●	—	●
7/07	—	—	—	—	●	●	●	●	●	●
7/08	○	●	●	●	—	—	—	—	—	—
7/09	—	○	—	—	—	—	—	—	●	—

●：感染好適条件 ○：準感染好適条件 —：感染好適条件なし

BLASTAM：気象庁のアメダスデータを用いて葉面の湿潤時間を計算し、いもち病（葉いもち）の感染しやすい条件を推定するシステムを農業環境指導センターホームページで公開しています（6～8月）。

3 防除対策

- （1）ほ場の発生状況をよく観察し、発病を確認したら、直ちに防除を行う。中山間地域の常発地や、いもち病に効果のある箱施用剤を使用していないほ場などは特に注意する。
- （2）上位葉に葉いもちが多いと、穂いもちの発生も多くなるため、出穂前に葉いもち防除を徹底する。
- （3）葉いもちに効果のある予防剤（箱施用剤など）を施用したほ場でも発生することがあるので、発生状況を見て系統の異なる薬剤を選び防除を行う。
- （4）本田防除剤で QoI 剤（ストロビルリン系殺菌剤）を使用する場合、多発時の使用を避け、使用は最大で年1回とする。
- （5）取り置き苗は発生源になりやすいので早急に処分する。

表3 いもち病に登録のある薬剤（令和2（2020）6月30日現在）

薬剤名	希釈倍率	使用時期	本剤の使用回数	薬剤系統名	FRACコード
ブラシフロアブル	1000倍	収穫7日前まで	2回以内	ピリミジン	F:U14
				MBI-R	F:16.1
ダブルカットフロアブル	1000倍	穂揃期まで	2回以内	抗生物質	F:24
				MBI-R	F:16.1
カスミン液剤	1000倍	穂揃期まで	2回以内	抗生物質	F:24
アミスターエイト	1000～1500倍	収穫14日前まで	3回以内	ストロビルリン	F:11
トライフロアブル	1000倍	収穫14日前まで	2回以内	その他	F:U16

詳細は、農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせは「農政部ツイッター(@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。